

## 農地関係の被害71億円余にのぼる

—1968年十勝沖地震—

### 1. はしがき

去る5月16日午前9時49分頃、北海道襟裳岬南東方約150kmの海底を震源としてM:7.8の大規模な地震が起り、青森、北海道の一部では役所のロッカーが倒れ職員は机の下とか屋外に避難する騒ぎとなり、東京でも農林省の大きな建物がグラグラと東西に揺れ動きお互いに顔を見合せキモを冷したものである。

この地震により苫小牧では震度6、浦河、広尾、函館青森、八戸、盛岡では震度5を記録し、有感区域は北海道から中部地方にまでおよんだ。

さらに同夜跡片付けの手を休め夕食の時と思われる7時39分再びM:7.5の大規模な余震が発生し、このため被害が激増し人々の不安感が一層大きなものとなった。

この地震災害に対処するため政府は同日災害対策基本法に基づき「1968年十勝沖地震非常災害対策本部」を総理府に設置し災害対策を強力に推進している。

### 2. 被害の概要

地震による被害は青森県を中心に北海道、東北全地方におよび死者、行方不明52人、負傷329人、家屋の全壊、全焼689棟、半壊、半焼2,999棟、被災世帯4,475世帯におよび、施設等の被害については農地、農業用施設71億円、公共土木施設関係約80億円、中小企業関係約78億円等で総額531億円にのぼっている。

このうち農地、農業用施設の県別内訳は青森県の50億円を頭に北海道6億円、岩手県1億円その他等となっている。なお工種別に見ると下表のとおりで、タメ池、水路の被災が目立っている。

農地	5,726カ所	2,269ha	1,235,486千円
頭首工	167 "		243,615 "
水路	2,666 "		2,166,862 "
揚水機	238 "		523,640 "
タメ池	327 "		2,181,830 "
橋リュウ	242 "		139,278 "
道路	1,863 "		653,355 "
堤防	5 "		3,200 "
農地保全	27 "		4,600 "
計	11,261		7,151,866 "

外に直轄災害	43カ所	1,570,830千円
海岸災害		271,600千円

### 3. 今回の災害の特徴

今回の地震はM:7.8、7.5という大きなエネルギーを持った地震が相ついで起ったが、震源地が遠かったためと、上下動がなかったために過去における同規模の地震に比して被害が大きなものとはならなかった。

しかし、農業施設の面より見ると時期が丁度シロカキ期、田植時期にあたり、タメ池は満杯、水路は満流状態となっており地震の振動による被害の外、越水による被害があり、タメ池のキ裂、欠壊、水路装工の破壊、倒伏が目立っている。

また地震前の13~15日に北海道、東北部に30~80mm/dayの降雨があり、地盤のゆるみに地震を受け被害を助長しているのも今回の地震災害の特徴となっている。

特に青森県の軟弱地盤、北海道の泥炭地帯において被災程度が著しく、地盤沈下、隆起等の現象が見られ、構造物も荷重を軽減する型式を採っていることもあり、コンクリート構造物、ブロック水路、管水路等の被害が著しい。

次に農地の被災については、地震による直接被害の外、タメ池、水路の欠壊による二次的被害が大きいのも特徴となっている。

### 4. あとがき

被災時期が田植期であり心配されていたが、水路の応急復旧はほぼ完全になされており、タメ池についてもポンプ揚水、用水の譲り合い等で農地の応急復旧と相まって田植促進に涙ぐましい努力が払われているが、西日本に干バツの徴候も出て来ており今後の用水対策が円滑に進められることを切に望むものである。

(災害復旧課 塚本記)

## 紀の川用水農業水利事業とは

大台ヶ原に源を発する紀の川の流れて沿って、国道を西に走り、紀州路に入ると、兩岸の山は、いかにもミカンの本場を物語るがごとく、全山黄金色に映えわたっている。このミカン畑の用水量補給を目的とした“畑地カンガイ事業”が、全国的に増加しつつある今日において、ミカン所の紀州において始めて、国営事業として紀の川用水事業が採りあげられ、昭和39年10月に現在地和歌山県橋本市に、「紀の川用水農業水利事業所」が開設せられたことは、農業の近代化を進める農政の一端がうかがえるものといえるであろう。

本事業の概要は、水田面積2,583ha、畑地カンガイ面